

群馬・上郷岡原遺跡

かみごうおかのはら

木簡は、江戸時代中期の三区一面一号建物から出土した墨書のある建築部材一点である。他に井桁を丸で囲んだ記号が焼印で押された部材が一点出土している。

所在地 群馬県吾妻郡東吾妻町三島字上郷・字岡原

2 調査期間 一〇〇一年(平14)四月～一〇〇二年一月

3 発掘機関 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

4 調査担当者 楠崎修一郎ほか

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 平安時代～近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

上郷岡原遺跡は、群馬県の北西山間部にある吾妻郡のほぼ中央に位置し、利根川支流の吾妻川中流の右岸段丘上に立地している。

調査の結果、天明三年

(一七八三)の浅間山大噴火によって発生した泥流によつて埋没、破損した家屋や畑地などを検出した。家屋跡から出土した大量の建築部材は、当該期の家屋の構造や間取りを知る上で良好な資料である。

8 木簡の积文・内容

(1)

「あはれ
くも
へたは
稻の花」

220×(82)×8 065

(2)

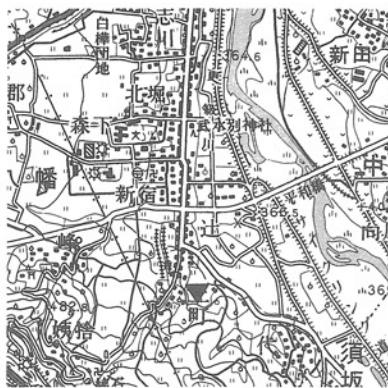
「
」

360×36×4 065

9 関係文献

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団『上郷岡原遺跡(1)』(一〇〇七年)

(高島英之)



(草津)

木簡は、江戸時代中期の三区一面一号建物から出土した墨書のある建築部材一点である。他に井桁を丸で囲んだ記号が焼印で押された部材が一点出土している。



(1)



(2)